



百貨店の売り上げ高39%減 コロナが影響

道内主要百貨店売上高

	2020年1~6月		2020年6月	
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比
大丸札幌店	19,483	▲40.6	3,773	▲25.0
札幌丸井三越	18,935	▲40.0	4,013	▲23.6
さっぽろ東急百貨店	6,401	▲40.2	1,316	▲27.0
丸三池内	1,169	▲43.0	212	▲31.8
丸井今井函館店	2,685	▲26.8	650	▲6.2
藤丸	2,186	▲20.2	393	▲5.7
合計	50,858	▲39.1	10,357	▲23.3

札幌落ち込み顕著

北海道新聞がまとめた道内主要百貨店6店(社)の2020年上半期(1~6月)の売上高は、前年同期比39・1%減の508億5800万円(2年連続のマインス)となった。新型コロナウイルスの感染拡大で2月以降、営業時間の短縮や臨時休業に踏み切ったことや、緊急事態宣言下の外出自粛などが響き、前年を大きく下回った。なかでも感染者の多い札幌市内の百貨店の落ち込みが顕著だった。(土屋航)

百貨店売上高39%減 道内上半期 コロナ響く

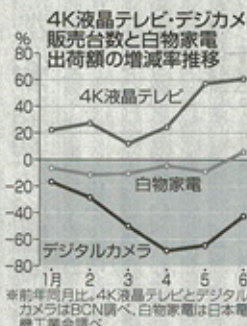
冬物セールが好調だった1月は前年同月比0・8%増と上半期で唯一のプラスを確保したが、中国政府が海外への団体旅行を禁止した下からは客足が鈍化。2月(同24・5%減)から5月(同81・9%減)まで、月を追って落ち込み幅が拡大した。業態悪化に拍車をかけるきっかけとなったのは2度の緊急事態宣言だ。2月28日の道の緊急事態宣言を受け、各社は営業時間を短縮。3月16日に同宣言は解除されたものの、4月16日には国の緊急事態宣言が全国に拡大。札幌の百貨店を中心に、最長で5月末まで全館

室内で七夕祭りを開催



自粛で売れる4Kテレビ

6月は前年比6割増 デジタルカメラ低迷



高解像度4K液晶テレビの販売が好調だ。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、自宅で過ごす時間を楽しもうと買い替えが進んでいるもようだ。6月の白物家電の国内出荷額もルームエアコンや洗濯機が堅調で、23年3カ月ぶりの高水準となった。一方、催しの中止などでデジタルカメラは低迷が続いている。

発信 奥尻

「奥尻ブルー」と呼ばれる美しい海。奥尻島は人口減少率で見た場合、奥尻島は40年、10年比で道内唯一の減少率で減少率を減らす。奥尻島は人口減少率で見た場合、奥尻島は40年、10年比で道内唯一の減少率で減少率を減らす。

**まなびの留學生**

**全国募集へ高校町立化**

「奥尻ブルー」と呼ばれる美しい海。奥尻島は人口減少率で見た場合、奥尻島は40年、10年比で道内唯一の減少率で減少率を減らす。奥尻島は人口減少率で見た場合、奥尻島は40年、10年比で道内唯一の減少率で減少率を減らす。



ほっとかんまで遠足